



かん せん 乾癬はどんな病気ですか?

企画：
日本医師会

No. 532

指導：自治医科大学医学部皮膚科学講座 教授 大槻 マミ太郎

乾癬の症状

日本人には40万人以上の乾癬の患者さんがいるといわれています。皮膚に赤く盛り上った発疹(図)ができ、しばしばかゆみを伴います。表面に白いふけのようなものがついたり、ときには銀白色のかさぶたのようになります。発疹は頭部、爪、ひじやひざ、おしり、すねなどにできやすく、患者さんによっては、全身に膿疱のうほうができて発熱したり、関節が痛むこともあります。感染する病気ではないので、ほかの人にうつる(感染する)ことはありません。



図 乾癬に特徴的な発疹

主な治療法

主な治療法には外用療法、内服療法、紫外線療法、注射療法などがあり(表)、病気の状態や生活状況に応じて治療を組み合わせて行います。悪化と軽快を繰り返すので、根気よく治療を続ける必要があります。

表 乾癬の主な治療法

治療の種類	治療の内容と作用の仕組み
外用療法 (薬を塗る)	ステロイド外用薬で、皮膚の炎症を抑える。
	ビタミンD ₃ 外用薬で、表皮細胞の過剰な増殖を抑える。
内服療法 (薬を飲む)	ビタミンA誘導体で、表皮細胞の過剰な増殖を抑える。
	免疫抑制薬で、皮膚の炎症を抑える。
	酵素阻害薬で、免疫反応を抑える。
紫外線療法	抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬で、かゆみを抑える。
	皮膚に紫外線を照射し、皮膚の炎症を抑え、表皮細胞の過剰な増殖を抑える。
注射療法	乾癬の発症や悪化に関係するサイトカイン*の働きを阻害する薬剤を注射し、症状を改善させる。

*免疫反応や炎症反応を起こすときに重要な働きをする物質

あなたが患者さんなら -悪化させないための日々の注意点-

皮膚を良い状態に保つことが大切です。そのためには、バランスの良い食事と十分な睡眠を心がけ、食べすぎ、強い香辛料、過度の飲酒、喫煙は避けましょう。入浴の際は、こすりすぎると症状が広がったりするので、やさしく洗うよう注意してください。適度な日光浴は効果的ですが、急激な日焼けはよくありません。症状が急に悪化したり、心配なことがあるときは、早めに主治医を受診しましょう。



日本医師会ホームページでは、健康ぷらざのバックナンバーがご覧いただけます。



日医
バーコード読み取り機能付き
携帯電話もしくはスマートフォン
でご利用になれます。

◆待合室等に掲示し、患者さんにお見せください。